

図書館員のひみつの本棚 第229回

今月は、オランダ発の冒険物語を紹介します。

『ふたごの兄弟の物語』 上下 トンケ・ドラフト／作, 西村 由美／訳 岩波書店 2008.12

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年★☆☆ 小高学年★★★★ 中学生★★★★
高校★★☆ 一般★★☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

もうすぐ子どもが産まれる靴屋のところに、2ひきの子犬、2ひきの子ネコ、2羽のハトがやってきました。そして産まれたのは、ふたごの男の子！

それぞれに犬を従え、ハトを肩に乗せ、ネコを腕に抱いて歩く姿は本当にそっくりで、仲の良い2人はいつも一緒にいました。でも、15歳の時にお父さんが亡くなり、2人はそれぞれの道を歩き始めます。時に別々に、時に一緒に、様々な冒険をしていく2人は、いったいどんな道を見つけていくのでしょうか？

<子どもに手渡す時のポイント>

なぞなぞを出す騎士が出てきたり、伝説の指輪が出てきたり、昔話のような雰囲気のある冒険物語です。上下巻の長い物語ですが、全部で12章に分かれており、それぞれの章で小さな物語が完結します。1章ずつ読んでも満足できる内容なので、少しずつ読み進めることも可能です。

ワクワクしながら2人と一緒に冒険を楽しんでください



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみて下さい。